ずいそう

# 技術者の継続教育に対する私考

岸　田　隆　夫

建設会社が従業員の技術者に取得して欲しい資格として，「技術士（主に建設部門）」がある。また，従業員である技術者が取得したい資格でもある。その理由は有資格者としてより重要な業務に付きたいからでもあるが，むしろ，技術者が自分の技術力に自信をもって，顧客や仕事のパートナーに自分の考えを的確に示すことができるようになりたいとの思いが，取得理由としてさらに大きいようである。

良く知られているとおり，2000年の技術士法の改正に伴い，それまでの「信用失墜行為の禁止の義務」「守秘義務」「名称表示の義務」の3つの義務に加えて，「公益確保の責務」と「資質向上の責務」が加わった。2つの責務の内，前者はこの1年話題となっている「姉歯問題」に見られる個人としての「技術者倫理」，および，組織としての「コンプライアンス（法令順守）」に繋がっている。ここでは，後者の「資質向上」を実現するための「継続教育（CPD）」を取り上げたい。もち論，技術士以外の技術者にとっても重要な項目である。

従来，技術の伝承は，職場での上司や先輩からのOJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）がもっぱら引き受けるものと考えられて来た。しかし，近年は職場の人員構成がOJTがしやすかったピラミッド型が崩れている。加えて，伝承するべき技術も大きく変化している。卑近な例で恐縮であるが，日常の業務に欠くことができないパソコンの取り扱いなどを私は若い人に教えてもらう状況である。業務の内容が大きく変化しており，その変化も速くなっており，必要な技術も急速に広がりを見せている。職場内だけでは，また，自分の専門領域だけでは，自分の職務に十分な技術を習得できなくなっている。

例え話をすれば，わが国の昔のプロ野球では，「準備体操もしないで，即，試合に臨めるのがプロだ」と言った名選手がいたくらいで，「試合の中で技術を磨く」ことを重視していた。これに対して，近代のプロ野球では，基礎体力である筋力を付けるためのウェイトトレーニングから始まり，バッティングマシンを使った打撃練習や，多くの場面を想定した連係プレーなど，試合以外の場面での練習が不可欠になっている。すなわち，昔は試合の中で先輩選手から技術を「盗んで」習得するOJTがプロ野球でも中心であったが，最近はスポーツ工学の力も借りて試合外の練習であるoff-JT（職場外訓練）が不可欠になっている。

これと同様のことがプロの技術者にも当てはまり，最近ではoff-JTであるCPDが必要となっている。中でも建設系の技術者に対しては，土木学会，地盤工学会など建設系の各学協会が，それぞれCPDシステムを立ち上げて支援を始めている。さらに，建設系以外の機械系や電気・情報系学協会との連携が建設系CPD協議会や日本工学会PDE（技術者能力開発）協議会などを通じて実現しようとしている。

そのCPDの中身についてはプロの技術者個人に任されているが，筆者は次のように考えている。筆者を含めた50歳代以上の技術者は，IT技術などの先端技術に関して業務に必要とする範囲で学習する必要がある。次に，中核となる40歳代の技術者は，マネージメントに関する理論や，専門以外の分野の技術や異業種との学際的技術を学ぶと共に，技術者倫理やコンプライアンスなど多くを修得することが望まれる。また，30歳代以下の若い技術者は，これらの基礎的な技術を学ぶことに加え，専門分野の技術を習得することが中心となろう。さらに，CPDの範囲ではないが，伝記や小説を読むことを勧めたい。若い技術者が顧客やパートナーと良好な関係を築くうえでは，他者の立場への配慮や生き方への共感が必要であり，その最も良いテキストが伝記や小説などであり，活字を通じて多様な人生のあり方を学んで「基礎学力」を涵養することが望ましい。

曲解を恐れずに言えば，40歳代の中核技術者には，「他のポジションの選手との連係プレーの練習」が要求され，30歳代以下の若い技術者には，「打撃練習」に当たる専門技術に加え，「基礎体力」を付けるための「読書による基礎学力」が必要であろう。こうしたプロの技術者としての日頃の鍛錬が，所属する企業や学協会を発展させ，さらにはわが国の技術立国に役立つことを期待したい。

――きしだ　たかお　東亜建設工業株式会社技術研究開発センター長――